

2023年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 和	代表者	鈴木 香	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「和 なごむ」「安心」「創造」</li> <li>・住み慣れた家で、なじみの地域で、家族や地域の方々と共に支え合い、安心して生活できるように支援します。</li> <li>・長い年月重ねてきたこれまでの生活を、なじみの職員が24時間365日切れ目なく支えます。</li> <li>・一人ひとりの気持ちに向き合い、寄り添って、希望ある生活の提案をします。</li> <li>・介護している家族の方々を支えます。</li> </ul>
事業所名	小規模多機能ホーム いつものところ	管理者	大場 陽子		

出席者	市町村職員	知見を 有するもの	地域住民 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括 支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計	今年度は、利用者家族（8人）にも配布し、 回答をいただき、まとめに反映しました。
	1人	人	4人	4人	2人	1人	人	4人	人	16人	

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	事業所会議の中で、定期的に改善計画について話し合い、できていることは継続し、できていないことは、全員で改善できるように取り組んでいく。	会議等で定期的に改善計画の確認を行い、各職員が意識をして、より良い支援を行うことができた。	事業所自己評価の作成、改善計画など、真剣に取り組んでいるのが資料をより推測できる。	事業所会議の中で、定期的に改善計画について話し合う。話し合いの中で、自身のできていないことを知り、全員で改善できるように取り組んでいく。
B. 事業所の しつらえ・環境	引き続き、事業所内の環境整備（換気・温湿度・明るさ等の管理、手洗い・消毒、掃除）に力を入れ、居心地のよい空間作りをする。	手洗い・消毒・掃除を徹底し、定期的な換気、湿度確認等を行って、居心地のよい空間作りをした。	施設内外は清潔感があり、環境誠意においても皆様が生活しやすい場づくりに努めている。	事業所内の環境整備（換気、温湿度・明るさ等の管理、手洗い・消毒、清掃）、建物周辺の清掃に力を入れ、居心地のよい空間作りをする。
C. 事業所と地域の かかわり	前回の改善計画は引き続き行う。コロナの収束を見据え、地域の行事やイベントに少しずつ参加し、地域との関わりを深めていく。	地域のイベントに参加したり、「まちかど運動教室」や「ひまわりカフェ」を地域関係者と協力して行うことができた。	「ひまわりカフェ」が開催となり、そこで個別相談ができサービスに繋がったケースがある。今後も、気軽に相談できる場所になってほしい。	地域の行事やイベントに積極的に参加し、地域との関わりを深めていく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、日常的に利用者と散歩に出かけ、地域の方たちと関りを繋いでいく。	新型コロナウイルス感染症予防をしながら、散歩や公園などに外出することができた。	散歩や外出が多く、ときには市外の公園や施設に出かけている。利用者の楽しみが増えるよう努力、工夫がされている。	日常的に利用者と散歩に出かけたり、外出をしたりして、地域の方たちと関りを深めていく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	運営推進会議の対面開催が、可能になりつつある。参加者から出た意見等を取り入れ、より良い取組みへとつなげていく。そして、運営推進委員の方たちの力を借りて、会議の充実を考えていく。	運営推進会議を対面開催し、参加者から出た意見を取り入れ、より良い取組みへとつなげていくことができた。	運営推進委員から意見や感想をもらう機会を設けられ、施設の取組みをより良いものにしていくための努力をされていると感じた。	運営推進会議の参加者から出た意見等を取り入れ、より良い取組みへとつなげていく。そして、運営推進委員の方たちの力を借りて、会議の充実を考えていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	福祉避難所という自覚を持ち、災害時に備えて、各職員が備品や備蓄物資等の種類や数量、保管場所等の確認を定期的に行っていく。新型コロナウイルス感染症が収束したら、通常どおり、ホーム内や避難訓練の見学なども行っていく。	地域の方たちとの訓練はできなかったが、事業所内で定期的に避難訓練を行った。事業所内の研修で、備品や備蓄物資等の種類や数量、保管場所の確認を行った。	発電機の定期点検や、実際の利用方法など日常訓練の中に取り入れられ、より実践に即した形で計画している。年に4回の避難訓練を実施しているのはとても素晴らしい。	福祉避難所という自覚を持ち、災害時に備えて、各職員が備品や備蓄物資等の種類や数量、保管場所等の確認を定期的に行なっていく。ホーム内や避難訓練の見学なども行っていく。

